

○正しく知って、正しく畏れる浅間山の火山防災

～“浅間山北麓ビジターセンター”と“やんば天明泥流ミュージアム”の取組～

ながのはらまち
あさまやまほくろく

群馬県長野原町では、隣接する孺恋村との協働による「浅間山北麓ジオパーク」の活動を通じて、浅間山の歴史や自然環境と合わせ、観測体制や火山防災事業なども来訪される方々に知っていただく活動に取り組んでいます。令和3年4月に、町営浅間園内の「浅間山北麓ビジターセンター」と、ハッ場ダム湖畔の「やんば天明泥流ミュージアム」がオープンし、より浅間山の火山災害の歴史などについて理解していただけるようになりました。また、訪れた方の理解が深まるよう、スタッフやボランティアによるガイド活動もさせていただいております。

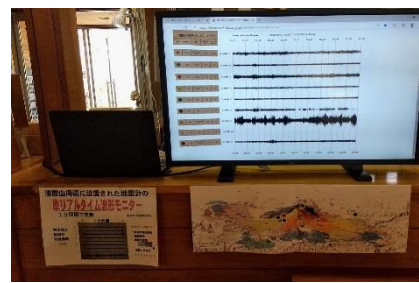
■長野原町営浅間園 浅間山北麓ビジターセンター



浅間火山博物館の老朽化に伴い、二輪車展示館として使用していた建物を改装し、ビジターセンターとしてリニューアルオープンしました。

館内では、浅間山の生立ちや、火山噴火後の植生遷移を展示するジオラマ、浅間山の火口の模型や植生分布の展示と併せ、実際に触れて体感できる岩石の展示などをしております。

また、浅間山の地震計のモニターも設置し、火山観測態勢や噴火警戒レベルなどについて説明させていただいております。



町営浅間園内には、ビジターセンターのほか、「自然遊歩道」や、全長6km、高低差300mのトレッキングコース「スカイロックトレイル」もあり、浅間山から流れ出した熔岩や、素晴らしい自然環境を体感できます。

◆自然遊歩道



自然遊歩道は、1783年（天明3年）の噴火で流れ出した鬼押し熔岩の中を歩くことができる遊歩道です。

写真は、ボランティアガイドによる、地元高校へのジオ学習支援活動の様子です。

◆スカイロックトレイル



スカイロックトレイルは、1783年（天明3年）の鬼押し熔岩と、1108年（天仁元年）の上の舞台溶岩を体感しながら歩けるトレッキングコースです。入山には、認定ガイドの同伴が必要です。



■ やんば天明泥流ミュージアム

ハッ場ダム建設に伴い水没した吾妻川沿いの約100万㎡を発掘調査した結果、縄文時代から江戸時代までの遺跡が折り重なるよう見つかり、特に1783年（天明3年）の浅間山の噴火によって発生した天明泥流により埋もれた村々が広範囲に発見されました。

やんば天明泥流ミュージアムは、調査成果をもとに被害の全貌をひもときながら、当時の村々の景観や人々の暮らしを今によみがえらせ、体感していただくことを目的につくられたミュージアムです。



ハッ場ダムの完成で誕生したダム湖「ハッ場あがつま湖」のほとり、国道145号線沿いにあります。建物脇のハッ場あがつま湖には水陸両用バスも走っています。



はじめに、1783年（天明3年）の天明噴火と泥流発生メカニズムについての映像をご覧ください。史実や研究成果に基づいたリアルな映像で、天明泥流の発生までの経過などが理解できます。



展示室は4つのゾーンでできています。最初のゾーンは浅間山と現地の位置関係や年代などを確認するガイダンスと、天明3年当時の生活についての展示です。山間部の集落ではありましたが、豊かな生活ぶりだったことがうかがえます。

次のゾーンは「うばわれた日常」というテーマで、天明泥流の被害のすさまじさを知ることができます。



3つ目のゾーンは「伝承」をテーマに、浅間山北麓エリアの伝承活動の他、全国各地での火山との共生事例などを紹介しています。



最後のゾーンは縄文時代から平安時代頃までの展示となっており、古くから集落があり、人々の生活があったことがうかがえます。

各施設の間合せ先

■長野原町営浅間園＜浅間山北麓ビジターセンター＞

電話 0279-86-3000

メール asamavc2568@gmail.com

URL www.asamaen.tsumagoi.gunma.jp

■やんば天明泥流ミュージアム

電話 0279-82-5150

メール ホームページのお問い合わせフォームより

URL www.town.naganohara.gunma.jp/www/yamba-museum/